

十和田市立 新渡戸記念館だより

太素祭企画展

「祭をつくる」で復元した
142年前の“大行燈”



安政6年(1859)三本木原開拓によって建設された新町・稲生町ではじめて着前祭(馬の神様の祭り)がおこなわれました。その目玉として高さ1.8m全長7.2mの“大行燈”が盛岡からとりよせられました。これには表側に穴堰工事、測量、上水成功の様子、裏側には田植えの様子が描かれ、多くの見物客があつまりました。今回の企画展ではこの大行燈を20分の1模型で復元しました。

5月3日～5日 平成13年 太素祭 開催

稲生川上水143年を記念する春祭り・太素祭がおこなわれ、3日間で約13,000人の人出がありました。例年通り上水記念日である4日には太素祭式典が行われ、新渡戸傳翁墓前で太素頭彰会会長・中野渡春雄十和田市長が祭詞を捧げ、参列者が献花をおこないました。イベントについては今年から内容が一部見なおされました。



太素祭式典の様子▶

太素祭企画展「祭をつくる」とクイズ大会開催

記念館では1階展示室の一角を可動パネルで仕切って特設展示室とし、5月3日～6月30日まで太素祭企画展「祭をつくる—三本木原開拓地における祭りの創造—」を開催しました。今展では幕末の三本木原開拓とともに創り出された祭り、それ以前からある祭り、そして時代の変化とともに消えた祭りなどを紹介し、「祭り」を切り口に十和田市の歴史を考えるものとなりました。開催にあたっては十和田市郷土館、十和田市称徳館をはじめ



特設展示室入口

め関係各所に協力を仰ぎ、関係資料60点を借り受けました。また、展示のみどころについて5月1日～5日まで東奥日報に「三本木原開拓地—祭りをつくる—」として5回の連載記事を掲載いただきました。

企画展とともに子供向けのイベントとして昨年同様3日～5日までクイズ大会「クイズで探検!ニトちゃんとおそぼう!」



を館内で開催し、634の方が参加しました。内142名の方が全問正解されましたので、お名前を5月6日～6月6日まで館内に掲示し、その方々の中から抽選で20名の方に当館発行の小冊子1冊を郵送で贈呈しました。

◀当日配付したクイズ大会パンフレット

◀次ページへつづく▶

太素祭のイベントがかわりました

太素祭イベントの運営などを担当する(株)十和田市観光協会ではイベントの見直しを行い、5月3日に「太素ウォーク2001」を開催しました。太素ウォークには従来おこなわれていた史跡巡りバスツアーに加えて、徒歩で稲生川の流路を歩くコースが準備され、話題をよびました。徒歩のコースは太素塚から出発して稲生川の取水口まで行き、ふたたび太素塚にもどる約27kmで、昼食には当地が古くから馬産地であったことにちなんで馬肉汁が用意されました。観光協会ではイベントを通して太素祭を「開拓の精神を継ぐ祭り」に発展させていきたいとしています。



◀「開拓精神を継ぐ祭り」を基本コンセプトとしてデザインを一新した太素祭の広告折込チラシ

太素祭に献詠

5月4日市内
の久米新吉
から和歌2首
太素祭を
頂戴しました。

拓きましし祖を祀りし杜の杉
栄ゆ十和川の音よせ響(とよむ)

銅像の新渡戸傳翁一世かけ
成せし疏水の反照に輝(てる)

ありがとうございました

平成13年十和田市民大学講座

新渡戸稲造に関わる 2講座を開催



十和田市文化センターを会場として13年度十和田市民大学講座が開催されていますが、第1講座と第2講座には、それぞれ新渡戸稲造にゆかりの講師による講演が行われました。

第1講座 元国連事務次長 あかし やすし 明石 康氏
6月6日 「21世紀の国際社会と日本」

新渡戸稲造が事務次長を務めた国際連盟は、第一次大戦後世界平和と国際協力を目的として1920年(大正9)成立し、稲造は設立から7年間つとめました。その後満州事変を契機に'33年(昭和8)3月日本が連盟を脱退、同年10月稲造もカナダで客死しました。第2次大戦勃発とともに連盟は有名無実化し、終戦後の1945年連盟を発展的に継承する組織・国際連合が設立しました。日本は'56年から加盟、明石氏は翌'57年日本人としての国連職員第1号となりました。'92年(平成4)国連カンボジア暫定統合機構事務総長特別代表、'94年には旧ユーゴスラビア問題担当事務総長特別代表などをつとめ'97年退官。講演では国連40年の経験を踏まえて21世紀国際社会で日本が果たすべき役割について語られました。



講演前、記念館に来館された明石氏(右)と案内する館長

第2講座 元北海道大学講師 やまもと たまき 山本玉樹氏
6月22日 「新渡戸稲造先生ご夫妻創立
札幌遠友夜学校」

遠友夜学校は1894年(明治27)稲造が万里子夫人とともに設立した働く子供たちのための学校です。「何人にも悪意を抱かず、すべての人に慈悲をもって」というリンカーンの言葉をモットーに、札幌農学校の生徒を中心とする教師も完全なボランティアという運営について、山本氏は元生徒たちの語るエピソードを交えて涙ながらに話されました。「数年前北大のゼミ生たちを遠友夜学校で学んだ方に会ったのですが、孫のような学生に手を合わせて最敬礼され「私が今日あるのは貴方のお蔭です！貴方にそっくりな学生さんが私に教えてくださったのです！」と仰られるのです。学生達はびっくりして、帰りにはすっかり目の輝きがちがっていました」と話されていました。山本氏の熱演に、終了後は聴衆から大きな拍手が沸き起こり、氏が会場を後にするまで誰も席を立つことなく見送りました。現代の教育が直面している問題に鋭くせまるこの講演は聴衆に深い感銘を与えていました。



新渡戸稲造コーナーでの山本氏

遠友夜学校

学生募集ビラ

『文盲の宣言』より

本校の特色

- 一、世界で一つの学校。これ程どんな人でも入れる学校はありません。
- 一、社会事業団体として諸君の勉強に最大の誠意と関心を持っていきます。
- 一、勉強は夜六時半から九時十五分まで。
- 一、働きながら勉強できます。
- 一、幾ら歳をとっていても差支えありません。
- 一、男でも女でも構いません。
- 一、何時でも入れます。
- 一、月謝は要りません。
- 一、学用品はあげます。
- 一、先生は諸君の友達です。

新 収 蔵 資 料 新渡戸稲造が
編集顧問をつとめた
『英文新誌』 — The Student —

1904~5年(明治37~8)に発行された『英文新誌』(The Student)14冊を新渡戸稲造関連資料として収集しました。雑誌の誌面からは当時の稲造思想や活動だけでなくその交友関係なども知ることができます。

明治時代の英語雑誌『英文新誌』

『英文新誌』(The Student)は1901年発刊の『英文新報』(The English Student)の後身として'03年6月女子英学塾(津田梅子創立)内の英文新誌社で出版したものです。青少年の英語習得の奨励を意図して新渡戸稲造が編集顧問となり、A.M.ベーコン、A.C.ハーツホン、津田梅子、桜井彦一郎(嶋村)が編集にあたりました。翻訳書が出ていない海外名作文学の日本語注釈つきの掲載や、『平家物語』、樋口一葉の『十三夜』など幅広い日本文学の英訳紹介もあり、翻訳書が少ない当時、非常に画期的な雑誌だったといえます。また稲造の英文社説や、寄稿コーナーではタイムリーな話題を扱い、国内外の最新ニュースの紹介、最新英語学習情報やペンフレンド紹介、英訳および英作文の添削など、生きた英語の習得に役立つ内容となっています。

英文新誌からわかるベストセラー『BUSHIDO』

1900年アメリカで出版された稲造の著書『BUSHIDO』は、海外でベストセラーとなりましたが、それには'04年2月に勃発した日露戦争と日本の勝利という社会状況が反映しています。この度収集した『英文新誌』を読むと、日露戦争によって日本人に興味をもった外国人に『BUSHIDO』が日本人の精神素養の由来をたずねる参考書として愛読されていることがわかります。日露戦争終結のためのポーツマス条約締結にアメリカ大統領ルーズベルトが労をとったのも、『BUSHIDO』を読み日本人に対する理解があったからと言われていますが、'04年8月1日号(No.27)の編集者記事には、「大統領が日本に興味をもっており、日本に関する著述を読みたいとしたので、日本の高平公使は『BUSHIDO』その他の本を贈った」との記載があり、'05年の1月15日号(No.38)には大統領が友人に数10冊購入して配ったというエピソードも記されています。

◀『DUŠE JAPONSKA. BUSIDO』
(1904年発行ポーランド語版『BUSHIDO』)



「英文新誌」No.20~30, 33~35, 38(No.20, 21はペリー記念特大号として1冊となっている) 毎月1日と15日に発行。



英文誌新からわかる稲造の交友

1904年8月1日号(No.27)には、同年6月W.E.グリフィス(William Elliot Griffis 1843~1928/教育者・日本学者)が稲造に宛てた書簡が掲載されています。稲造はアメリカのジョンズ・ホプキンス大学在学中、(1884~7年)のちに『日米関係史』として出版される論文をまとめていましたが、この原稿の校閲などをグリフィスに依頼しています。また1905年版『BUSHIDO』増補10版にはグリフィスから長い推薦の文書が寄せられています。『新渡戸稲造全集第22巻』収録の'03年9月12日付けグリフィス宛書簡によると稲造はグリフィスに『英文新誌』を送っており、『英文新誌』No.27に掲載された書簡はこの雑誌を読んだグリフィスが稲造に宛てて書いたものと思われます。「親愛なる新渡戸博士へ、英文新誌の編集を貴方がされていることを嬉しく思います。その雑誌によって、またその中で、貴方は堂々たる仕事をされています」グリフィスは稲造の活動についてこのように述べ、『英文新誌』の中で当時中心的な話題となっていた日露戦争についての自らの見解をつづっています。

トビックス

太素塚でバードウォッチング②

★ルリビタキとキビタキ★

4月下旬太素の⁵⁰にキビタキ、つづいてルリビタキのつがいが姿を見せました。このところオオルリの姿が見えないのは残念ですが、ルリビタキの美しい姿に感激しました。この先も色々な鳥が来るとお思いますのでバードウォッチングと森林浴にいられてはいかがでしょうか。

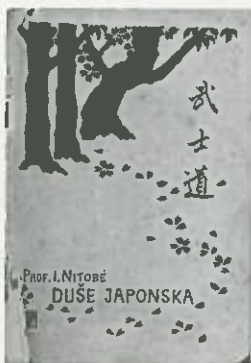
(写真は太素塚周辺で撮影)



ルリビタキ



キビタキ



関 連 情 報

●外務省発行のユネスコ加盟50周年記念冊子『ユネスコの物語』で新渡戸稲造を紹介

日本のユネスコ加盟50周年を記念して外務省で発行した記念冊子『ユネスコの物語』ではユネスコの前身である国際知的協力委員会の代表幹事として尽力した新渡戸稲造について紹介しています。この冊子制作にあたっては当館から稲造の写真を提供しました。



5000円札の新渡戸稲造。実は、ユネスコのルーツと深いかわりがあります。

● TBS 人気番組「はなまるマーケット」で五千円札紹介

5月29日のTBS「はなまるマーケット」のコーナー「香坂みゆきのはなまる博物館」で、日常使っている紙幣に注目し、五千円札肖像画のもととなった当館所蔵の写真が紹介されました。

●青森県立郷土館調査研究年報で当館所蔵海岸大砲台場 絵図調査を報告

平成11年9月に県立郷土館と当館の共同調査としておこなった当館所蔵下北地域海岸大砲台場絵図31点の調査結果が県立郷土館調査研究年報第25号に『弘前藩の絵図史料および新渡戸記念館海岸大砲台場絵図について』として掲載されました。資料一覧にはそれぞれの絵図面の特徴が詳細に記されています。



年報に写真で紹介された「北郡脇野沢村日和山大砲台場之図」

●平成12年12月1日～平成13年6月30日までの来館 小学校

<十和田市>西小学校・米田小学校<三沢市>古間木小学校<東北町>甲地小学校<横浜町>南部小学校

●印刷局記念館創立30周年記念「30年の歩みと日本のお札の図柄展」

お札と切手の博物館（財務省印刷局記念館）で6月26日から9月2日まで企画展「30年の歩みと日本のお札の図柄展」を開催しています。五千円札の新渡戸稲造をはじめとする肖像の人物の経歴やもとなつた写真、お札に採用された理由などを紹介しています。



●平成12年度分当館資料の裏打ち完了

平成12年度分、45点の資料の裏打ちが完了しました。

●太素塚・春の清掃奉仕活動

4/26十和田東ロータリークラブ 5/10十和田市老人クラブ大学通り老成会 皆さんありがとうございました。

活 動 報 告

●太素顕彰会理事会・評議員会開催

3月22日十和田市中央公民館において平成12年度第2回太素顕彰会理事会・評議員会を開催しました。新発見として新聞各紙で話題となった新渡戸万里子夫人の日本語入門書や新収蔵資料を会場に展示しました。

●館長講演会

<平成12年>12/5平成12年度建設業労働災害防止決起大会（十和田富士屋グランドホール）12/8 NTT・OB 青森大学（市中央公民館）

<平成13年>1/23十和田ロータリークラブ（十和田富士屋ホテル）3/31十和田郵便局（かんぼの宿十和田）6/5十和田市「生涯学習きらめき講座」（十和田東クリニック）6/25第29回全国ボイラー技師協会連合会定時総会（十和田富士屋ホテル）

●資料の貸出し

十和田湖町立法奥小学校四年生の社会科学習に穴堰工具・なかづるのレプリカを貸出しました。

●平成13年度太素祭を開催しました（詳細1～2面）

〈編集後記〉

太素祭も終り、企画展「祭りをつくる」も無事に終了しました。新開地の繁栄のため、いかに人集めに苦心したか、先人達の叡智に感心させられます。現代においても伝統を生かすとともに新しい時代にマッチした祭りの創造が望まれます。

発行 太素顕彰会
十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
TEL (FAX) 0176-23-4430
E-mail: mitobemm@hi-net.ne.jp
http://www.towada.or.jp/mitobe/
印刷 有限会社 岩間印刷所